

道議会本会議で代表質問



3月1日、第1回定例道議会本会議で、代表質問しました。

北海道命名150年、今後の展望は

国連は2030年を期限とする持続可能な目標として、貧困や飢餓の根絶、教育・ジェンダー、平和の実現など17分野にわたる目標、いわゆるSDGs（エスディーゼズ）を掲げ、わが国を含め全会一致で採択されております。

一方、本年、北海道は命名から150年を迎えており、急増するインバウンドをはじめ農水産物の輸出など、様々な分野でグローバルな展開を見せております。

こうした中で、北海道こそが将来に向け

て積極的に取り組むべき課題ではないかと質問したところ、高橋はるみ知事から早期に全庁的横断的な体制を整備するとともに、官民が一体となって展開できるよう、新年度に新たなビジョンを策定するとの答弁がありました。

本道が抱える様々な課題を聞く

その他、JR北海道の事業範囲の見直し、北海道新幹線札幌開業に向けた取り組み、空港の活性化、中国との交流、メディカルウイングの全国展開、生活困窮者への支援、介護職員の確保、夜間中学の取り組み、いじめ対策などについて質問しました。

※質問の詳細は中面に掲載しています。

北海道議会議員
〈札幌市白石区〉

森しげゆき通信



2018
春号

共同施設「そしあるハイム」の火災現場を調査

同様施設の実態調査求める

11人が亡くなるという痛ましい事故となった、札幌市内の共同施設「そしあるハイム」の火災現場を2月5日に視察、これを基に、第1回定例道議会

で、「生活に困窮する高齢者の受け皿整備が必要、これらの施設に入所を希望する方々の実態調査を行い、対策を講じるべき」と訴えました。

これに対し道からは、市町村や地域の自立相談支援機関と連携しながら、生活困窮者の実態を把握して、居住支援につなげていきたいとの答弁がありました。



障がい者の意思疎通条例と手話言語条例が成立

3月20日、「障がい者の意思疎通の総合的な支援に関する条例」と「言語としての手話の認識の普及等に関する条例」が道議会



自主夜間中学「札幌遠友塾」を視察

1月17日、札幌市内で開講されている自主夜間中学「札幌遠友塾」を視察しました。夜間中学は第二次世界大戦

による混乱や家庭の事情などで小中学校に通えなかった人の学び直しや、訪日外国人の日本語学習などを支援しています。



プロフィール

- 昭和28年6月12日 香川県坂出市生まれ
- 昭和47年 国立詔問電波高校(現香川高専)卒業
- 昭和56年 神戸大学経済学部卒業
- 平成6年 時事通信社退職(22年間勤務)
- 平成7年 北海道議会議員初当選
- 平成27年 同5期目当選
- ◆北海道議会 保健福祉常任委員会 理事
- 北方領土対策特別委員会 委員
- ◆公明党北海道本部 幹事長
- ◆北海道議会 公明党議員団 団長

●●● 皆様の声をお寄せ下さい ●●●

森しげゆき事務所

〒003-0025 札幌市白石区本郷通2丁目北3-21
TEL 011-860-4151/FAX 011-865-9043
URL <http://kmpplan.net/usr/mori/>
E-mail sigemori@seagreen.ocn.ne.jp

発行：森成之／編集：ケー・エム・プラン

2月19日、北海道立職業能力開発支援センターを訪



問、板金や塗装などの技能訓練の様子を見学しました。

この視察を踏まえ、第1回定例道議会にて、技術や技能を持った人材は本道の発展に欠かせない存在で、今後、例えば技能五輪全国大会を本道に誘致するなど、北海道の将来を担う土木や建築、設備、電気などの技術者の養成確保に積極的に取り組むべきと訴えました。

国後島を初訪問

北方四島交流事業で



昨年の8月25日から28日にかけて、北方四島交流訪問団の一員として、初めて国後島を訪問しました。

国後島中部にある集落の古釜布(ふるかまっぷ)ではスポーツ施設や中学校などを視察。また、地元住民の皆さんとの意見交換会ではごみ処理問題や医療・介護問題をはじめ若者の就職についてなど話題は多岐にわたり、大変有意義な意見交換をすることができました。

訪問後の道議会北方領土対策特別委員会において(写真=右下)、領土問題の解決、平和条約の締結に繋げるため、四島住民のニーズを共同経済活動の検討に反映させることが重要と訴えました。



写真は、左上が訪問専用船「えとぴりか」(根室港で)、右上が地元住民との意見交換会、左下は古釜布の共同住宅



メディカルウィングが本格運航

～永年の取り組みが実る～

医師や看護師が同乗して、一度病院に収容された患者さんをより高度で専門的な医療を提供する病院へ搬送する医療用小型ジェット機(メディカルウィング)が昨年7月30日、全国で初めて就航。これまでに重度の心疾患などの患者さん20人が釧路や稚内、函館から札幌の病院に無事搬送されました。

広大な面積を持ち、医療資源が偏在している本道において、新たな医療体制の充実に寄与することを期待されており、これまで、メディカルウィングの運航実現に関わってきた一人として、大きな喜びであります。さらに議会において、道内における緊急的な搬送をはじめ、道外からも患者さんを搬送できるよう全国展開すべきと訴えております。

一方、道内4機体制のドクターヘリも、平成28年度の運行実績は1,475件にも上っており、これからも道民の皆様の命を守るため更なる拡充に取り組んで参ります。



平成30年 第1回道議会定例会本会議で代表質問

質問と知事答弁のうち、主なものは記事の通りです。尚、森成之公式サイトから全編の動画を見ることができます。



新年度の予算要望書を知事に手渡す

道の新年度の予算策定の前に、道議会議員団として各分野に渡る政策や予算の執行に対する要望をまとめ、1月29日、高橋知事に手渡しました(写真下左)。

はじめに、議員団の団長として、「北海道は人口減少問題や地域経済の活性化、国際社会での北海道の地位確立など、様々な課題が山積しており、『斬新な発想と大胆な改革』という視点から、50年後、100年後の国際社会で重要な役割を果たしていく具体的な道筋を示すべき」と要望書の趣旨を説明、実現に向けて積極的に取り組むよう求めました。

要望書は、「世界に向けた交流成長戦略の推進」「景気・経済・雇用対策の推進」「環境の再生と暮らしの充実」など、14の分野、373項目に及んでおり、そのうち特に重点項目と位置付けたものを、直接、説明しました(写真下右)。



質問

JR北海道の事業範囲見直しについて、鉄道フォローアップ会議から報告が示されたが、どのような認識を持っているのか。

答弁

JRはもとより道や国も参画し、地域の皆様とJR北海道の経営努力を前提に検討協議を進め、公共交通ネットワークと地域交通の確保に積極的に取り組む。

質問

北海道新幹線の札幌開業に向けて、新幹線の経済効果を全道に波及させるため、どのように取り組むのか。

答弁

高規格幹線道路や都心アクセス道路、航空路線など交通ネットワークを充実し利便性の高い移動ができるよう取り組む。

質問

高齢化が進み、介護需要が増えていく中、これまで以上に介護職員確保が必要と考えるが、どのように取り組むのか。

答弁

新たに整備する、全庁一体となった庁内連携体制も活用し、介護サービスの提供に必要な人材の確保に取り組む。

質問

災害に素早く対応するため、道の災害担当部局に開発局の担当者を配置してはどうか。

答弁

来年度から人事交流に開発局職員も加える方向で協議する。

質問

日中平和友好条約締結40周年を迎え、交流の更なる拡大に向けどう取り組むのか。

答弁

私(知事)が早い機会に北京の清華大学を訪問し、学術・試験研究分野の新たな交流や大学間の人材交流を進めていく。

